

## 地方だより

宗谷地方の5、6月の天候は不順で、連日の曇雨天と東風の低温が続き、例年よりストーブの側が恋しい日が多く、漁業者は乾魚が低値製品となり、農作物の発芽、生育がおくれ、ここ近年にない悪天候であった。しかし6月末より急激に水銀柱が上昇やっと北国にも夏が訪づれた感の今日此の頃である。

昨冬より休航していた北日本空港は6月1日より札幌丘球一稚内間が開通、また利礼離島のエアタクシー（3



南極観測樺太犬訓練記念像  
(窪技官撮影)

名乗りセスナ機）も連日の満員飛行である。これからは利礼観光で利用も益々ふえることであろう。連絡船もガイド嬢を乗船観光者を送りこんでいる。

去る7月3日稚内裏山の異国に見える公園の公園まつりが行なわれ久しぶりの雲一つない快晴に恵まれて一万余の人出で賑わった。この日第一次南極観測に活躍し氷原に散った13頭の樺太犬の霊をなぐさめるため同犬の訓練ゆかりの地として同公園高台に健立された南極樺太犬記念碑の除幕式が挙行され、永田前南極観測隊長を始め

## 稚内地方气象台

石川文部省学術課長補佐、荒谷日本学術振興会部長、菊地前南極越冬隊員、北大犬飼、芳賀両教授等の関係者多数が参列、浜森市長令嬢によって除幕のテープが切られ、日展審査員加藤顕清氏（旭川出身）の力作による樺太犬のブロンズ像が白布から現われるや5,000個の色とりどりの風船がミスフラワー嬢の手から青空高く放たれた、ソリを引く樺太犬像はありし日の雄姿を市民の前に再現した。



除幕式におけるミスフラワー  
(南極観測樺太犬記念碑除幕式において)  
(生本技術員撮影)

翌4日より3日間は稚内市鎮守神社の祭典が行なわれ、まづまづの天候で市内、近郷からの人出は、公園まつりに引続いてのお祭り行事で賑わった。なお来月は港祭りとして1ヶ月おくれの盂蘭盆祭が行なわれる。

来る15日から稚内沿岸の混布漁が解禁、今後の天気心配される。天気予報の問合せが増えて予報者も忙しくなることであろう。

7月7日 成田記

(写真は窪技官、生本技術員撮影)